

原点からの繋がりを大切に

車いす陸上競技で世界の舞台で活躍する鈴木朋樹さん。ワミレスとの出逢いは車いすスポーツの普及を目指すイベントでした。

スポーツの世界を支えたい

生後8ヶ月で交通事故により脊髄を損傷した鈴木さん。4歳の時、母親が探し当ててくれた障害者スポーツ文化センターでスポーツの世界に触れ、クラブチーム「ラストライダーJr」の月2回の練習に、片道2時間をかけて欠かさず参加するようになりました。



現在は400mの強化に励んでいる



2004年
ワミレス賞で贈られた
オーダーメイドレーサー

2001年にワミレスがサポートをしてきた「東京車椅子マラソン」と出逢ったことをきっかけに、2004年、10才の時には「日産カップ追浜チャンピオンシップ」に出場しワミレス賞を受賞。オーダーメイドのレーサーが贈られました。「今までは先輩のお下がりを使っていたので本当に嬉しかった。それがなかったら、もしかすると今の僕はないと思います。」
中学時代は陸上競技部に所属。部活とクラブチーム、2つの環境を掛け持ちしながら、他の部員と同じメニューもこなしました。「顧問、仲間からの理解もあり、時には別メニューを組んでくださるなど、とても恵まれた環境でした。そのおかげでラストライダーの友達に勝てることも、当時の自分にとっては楽しみのひとつでした。」走るのがただ「楽しい」と思っていた陸上が「目指す」に変わったのは大学進学の時。今後が続けるか、それとも別の道に進むか。両親にも何度か相談をし、「陸上競技と出逢えたから今がある、4年間で世界を目指す選手になりたい」と純粹に思いました。

自分の経験が活かされるものづくり

現在トヨタ自動車に所属し、外部講演会の開催や、年に1/3を費やす海外遠征のブログ発信と、パラスポーツの認知度を高める業務が中心。その傍ら、車いすメーカーとも提携して、テストレーサーとして新モデル開発にも携わっています。「ワミレス賞をいただいたときからお世話になっているメーカーと、今まさに2020年に向けて開発中。自分が感じたことを伝えて一つのレーサーができる。こんなに嬉しいことはないし、自分の感覚に自信が生まれます。原点からの繋がりをこれからも大切にしながら、アスリートとしてもっと強くなるために、海外での経験を増やし、自分の可能性を広げていきたいと思っています。そして将来、パラスポーツ界を今以上に盛り上げていきたいです。」
鈴木さんは立ち止まることなく、目標に向かって突進んでいます。ワミレスの活動から生まれた縁が世界に繋がっています。2年後の東京でのさらなる活躍楽しみに、ワミレスではパラスポーツを応援し続けます。



TOMOKI SUZUKI

鈴木 朋樹さん

1994年生まれ。千葉県出身。トヨタ自動車(株)社会貢献推進部に所属し、自身の競技成績向上を目指す傍ら、パラスポーツを広める活動をしている。2017年 東京マラソン3位、世界選手権800m5位、1500m7位。20年東京でメダル期待の若手ホープ。

Enjoy sports! パラスポーツを応援してください!

私が出場するマラソン、400、1500、5000m等の種目においては、スピード感やタイムだけではなく、選手同士の「駆け引き」も魅力のひとつ。是非そのような部分にも注目をしながら、レース全体を楽しんでください!また、2年後だけではなく、今後のパラスポーツ界も盛り上がりがずっと続くよう、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

※1 東京車椅子マラソン/日産カップの前身。国営昭和記念公園を会場に開催され、長い歴史の中で様々な企画や工夫を凝らし、パラ陸上界を盛り上げました。

※2 日産カップ追浜チャンピオンシップ/毎年12月に、神奈川県横須賀市にある日産自動車追浜工場と横須賀市内のロードコースで開催されている車いすマラソン大会。ワミレスは1999年からサポートを開始し、2000年より優秀選手へのレース車いすの贈呈を続けています。